

御苑に向かって歩くと涼しさを感じますが、この感覚が数字として表れているものと考えられます。

また、夜から朝方にかけて御苑の上空 30m 程度まで冷氣溜まりが存在していることが分かりました(図5)。この冷氣溜まりは、市街地の小規模なオープンスペースではほとんど見られず、御苑のような大規模緑地ならではの機能と考えられます。

その冷氣溜まりは市街地に流出しており、概ね水平距離で 100m ほどまで確認され、流出の厚さは高さ 10m 程度となっていました(図6)。

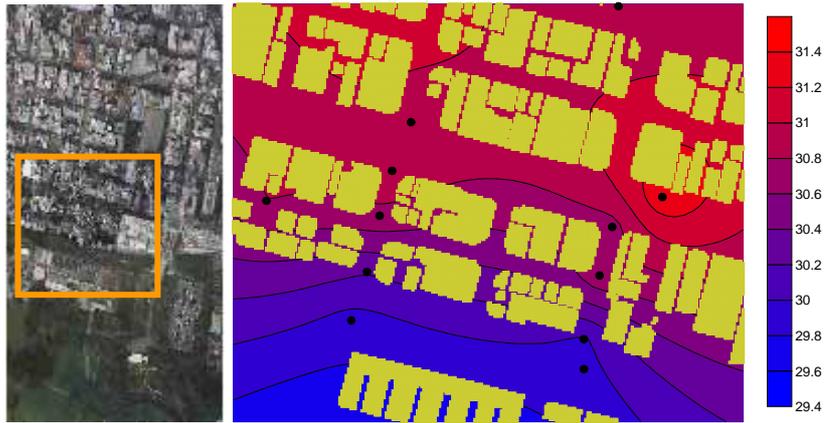


図4 御苑北側市街地の平均気温分布(7/27~8/29の日中)

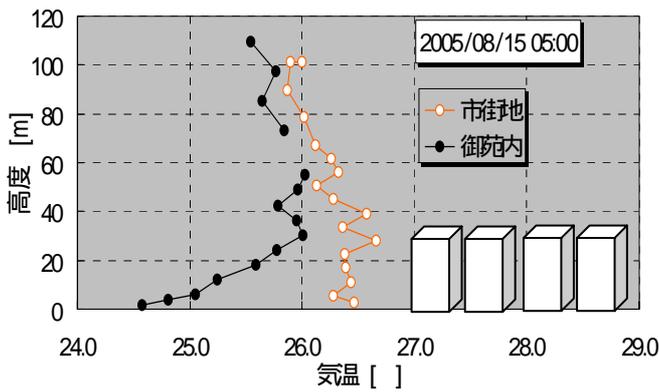


図5 気温の鉛直分布(夏の明け方)

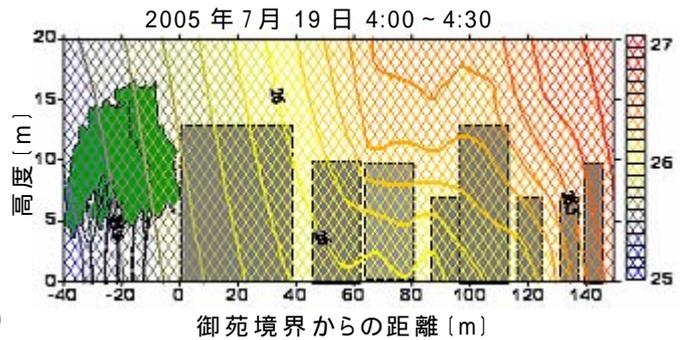


図6 冷氣流出の状況(夏の明け方)

3. 熱環境の改善に向けた課題と対策の方向性

【都市スケールで取り組むべき課題と対応策】

この地域は、都心部ながら明治神宮、新宿御苑、赤坂御所、神宮外苑などの大規模緑地が連なり、冷熱資源が豊富な地域です。しかし、これらの緑地は現状では建物や道路により分断されており、地域全体としてはこの冷熱資源の効果を十分に活用できていない可能性があります。

既存の小規模な緑地を繋ぐなどして、これらの大規模緑地を有機的に結びつける(図7)ことにより、冷熱を地域全体で活用することが可能となります。この

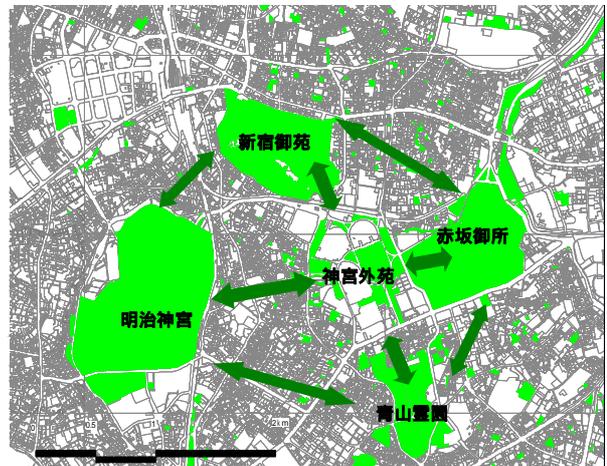


図7 都市スケールでの熱環境改善イメージ
- 緑のネットワーク化 -